

～道徳通信「さくら moral education」第2弾 1年間の振り返り～

桜のつぼみも少しずつ膨らみ始め、春の息吹が感じられるようになってきました。あっという間に1年が過ぎ、子供たちもまた一回り大きく成長することができました。

今年度の本校道徳教育重点課題（城山地域学校園の重点課題でもあります）は、「親切・思いやり」で、各学年のブロック重点課題として、1・2年…「規則の尊重」 3・4年…「友情・信頼」 5・6年…「よりよい学校生活・集団生活の充実」とし、指導にあたってきました。その結果、今年度の「宇都宮市学習と生活アンケート」では、

- ・「学校のきまりやマナーを守っている」…1・2年生 86.7%（市平均 91.1%）
- ・「思いやりの心をもって接している」…3・4年生 85%（89%）
- ・「学校生活に満足している」…5・6年生 90%（87.9%）

という結果となりました。5・6年生以外は市平均割合よりやや下回ったものの、85%以上の肯定回答となり、意識の向上が見られました。今後は、市平均を上回る結果となるように、きまりやマナーの大切さ、思いやりの心についてなど、道徳科を中心に日常生活と結び付けて学んでいけるようにしていきたいと思います。

その他、アンケート分析結果につきましては、学校 HP に掲載してありますので、ぜひご一読いただき、学校・保護者・地域が一体となって子供たちを育てていけますよう、ご協力をお願いいたします。

先生方に聞きました！重点課題に対して取り組んできたことは？

- ・「親しき中にも礼儀あり」「人の振り見て我が振り直せ」など、昔ながらのことわざ（言葉自体は難しいですが）をあえて伝えることで、それ自体がスローガンのように子供たちに定着し、日々の中でお互いに自分たちの行動を確認しやすくなった。
- ・日々の生活の中での課題を道徳の題材に取り上げると、いつも以上によく考え、活発に意見を出し合う姿が見られ、さらにその授業のあと、課題だなと感じていたことがぴたっとなくなった。やはり「自分事」として捉えることが大切なんだと感じた。
- ・道徳科の授業の終末では、自分の経験と照らし合わせて考えさせることで（以前の出来事を鮮明に思い出し、話しが盛り上がることもあった）、思いやりの心について考えを深めることができた。
- ・「心のメーター」を活用したことで、思いを言葉にしやすくなり、考えを深め合うことができた。
- ・学級での約束や集団生活のルールについて、なぜ必要なかを話し合い、自分たちで確認する時間を設けた。日常の場面で守れている点を認め、振り返りを行った。自分たちの役割を果たそうとする意識が高まり、周囲と協力しながら前向きに取り組める児童が多かった。
- ・道徳の学習で「自由と責任」、「友情を深める」などの授業を行った。だれもが一人で活動してうまくいっているわけではなく、他者と関わり協力することで、楽しい思い出や素晴らしい結果につながっていることに気付くことができた。行事などを通して、よりそれらのことについて実感することができた様子が見られた。
- ・年間を通じて、特別活動や日々の学級での活動など事あるごとに声掛けをすることで、個々が実践意欲を高く保ち、より高い価値を目指すことができる。